

「北海道ポーク」ロゴマークは 全会員の豚肉を対象に使用するようになります

会員の誇りと総意を結集し、
一層の品質向上を図り
北海道ブランドに育てましょう！！



一般社団法人北海道養豚生産者協会

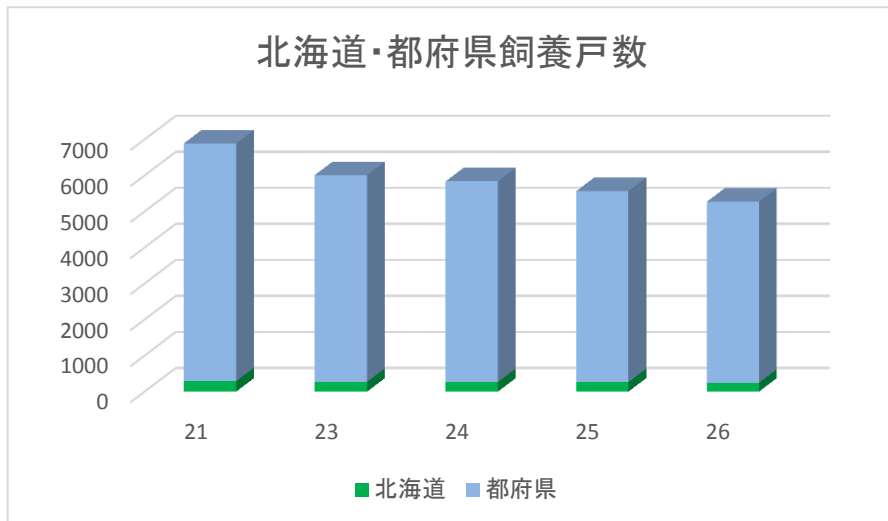
平成28年6月版

北海道養豚の地位と今後の課題

北海道養豚の実力

【農林水産省畜産統計から試算】

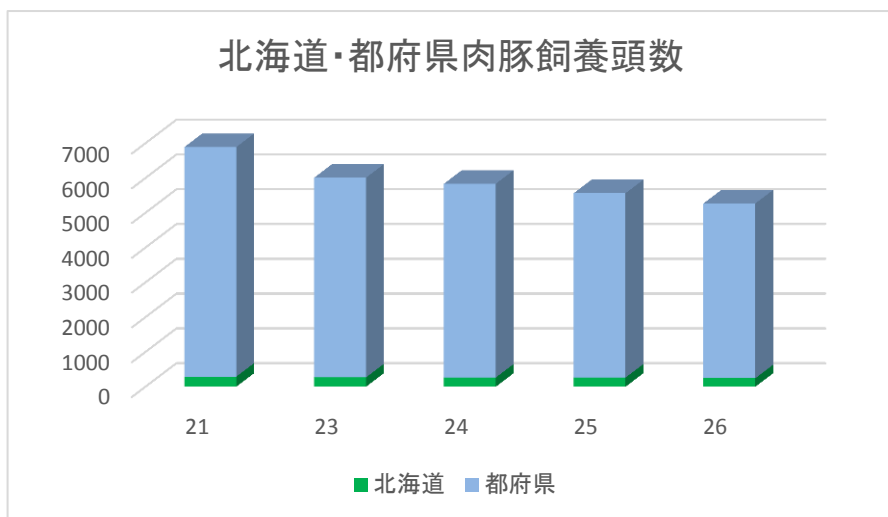
○ 年次別肉豚飼養頭数等の推移



■ 都府県の生産者は、6,600戸から5,025戸へと6年間で24%の減少

■ 北海道も290戸から246戸へと減ってはいるが15%の減少にとどまる

※ H22年はセンサス調査年につき未調査



■ 都府県の豚飼養頭数は年々減少し、9,326千頭から9,072千頭へと6年間で3%の減少

■ 北海道は規模の拡大もあり、573千頭から626千頭へと6年前に比べ9%の増

H26全国飼養頭数ランキング

都道府県	飼養戸数 戸	飼養頭数 千頭
鹿児島	637	1,332.0
宮崎	532	838.8
千葉	312	681.4
北海道	246	626.0
群馬	257	613.2
茨城	387	559.5
岩手	123	450.2
栃木	136	393.2
青森	107	381.8
全国	5,270	9,537.0

○ 都府県の養豚は都市化と温暖化のため畜産経営の維持はますます厳しいものへ

○ 北海道が持つ「広大な大地・冷涼な気候」は暑熱ストレスも少なく養豚経営に有利

○ 冬の積雪が融雪水となり、きれいな水を1年中、安定的に給与可能

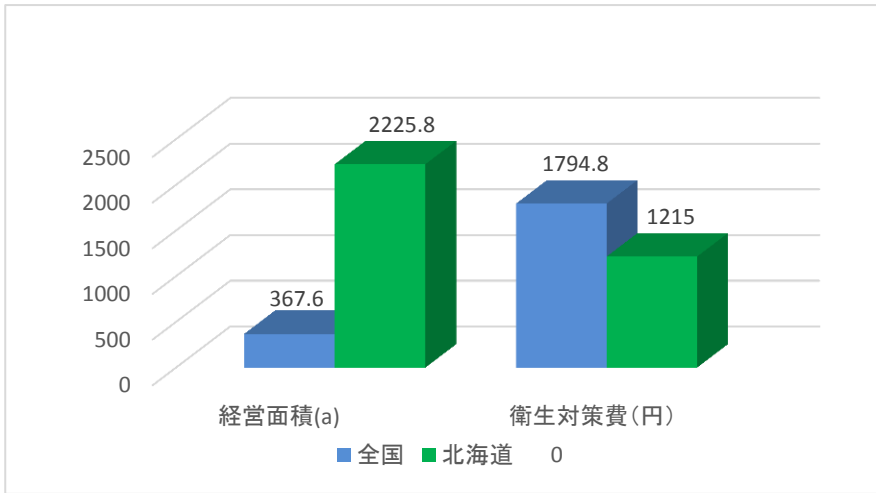
北海道産豚肉の優位性

【農林水産省生産費調査から試算】

○ 経営面積と衛生対策費の比較

(H22～26、5か年平均)

1戸当たり経営面積と1頭当たり衛生対策費の比較



■ 北海道の平均経営面積2,226aは全国経営面積368aの約6倍

■ 北海道の衛生対策費1,215円は全国衛生対策費1,795円の約2/3

※ 衛生対策費：獣医師料及び医薬品費

○ 土地が広く、冷涼で、新鮮な水が豊富。
北海道だから実現できる肉豚の飼養衛生環境！

○ 健康に育てた豚肉は安全・安心、おいしい！

TPP協定発動後の課題

○ 「農林水産物の生産額への影響について」における豚肉の影響額試算では・・・



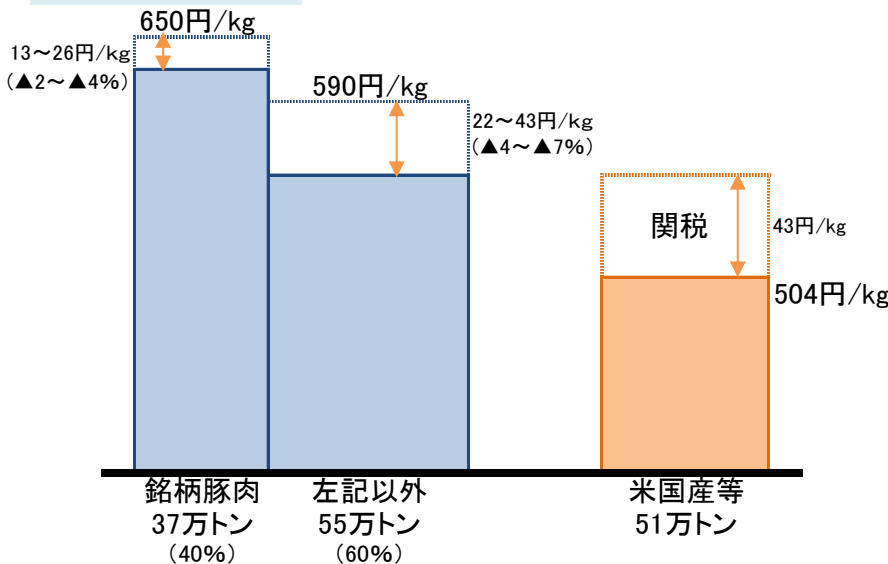
【考え方】粋

【農林水産省公表】
詳細は、農林水産省ホームページへ

- ① 差額関税制度が維持されたため、分岐点価格(524円/kg)での輸入が9割、従量税部分での輸入が1割と見込む。
- ② 国産銘柄豚肉以外の国産豚肉の価格は、外国産輸入豚肉の関税削減相当分下落(価格の下限值)。
- ③ 国産銘柄豚肉の価格は、それ以外の国産豚肉の価格低下率の半分の価格低下率で下落(価格の下限值)。
- ④ 国内対策により、上記の半分の価格低下に緩和(価格の上限值)。引き続き、生産や農家所得が確保され、国内生産量が維持される。

○ 北海道産の豚肉全体を共通ブランド化しTPPの影響緩和

【イメージ図】粋



○ 会員の生産した豚肉をまとめて十分な供給体制

会員・関係者の連携で全国に通じる北海道ポークに

会員の取組み

- 「北海道ポーク養豚憲章」を農場に掲示し、経営者及び従業員が一体となって遵守
- 「飼養衛生管理基準」に基づく毎月の自己点検及び記帳の実践
- 協会の衛生対策情報に基づく迅速な防疫対応
- 協会や賛助会員等が主催する研修会の活用による技術の習得

北海道ポーク養豚憲章

北海道ポーク養豚憲章

一 私たちは、常に衛生管理を徹底し、消費者に安全・安心を提供します。

二 私たちは、豚の成育環境を整え愛情を持って健やかに育てます。

三 私たちは、作業目的を理解し、チームワークで関係法令の確実な遵守に努めます。

四 私たちは、農場の発展と家庭の幸せを実現するため、互いに協力し合います。

五 私たちは、北海道の恵まれた自然を次代に引き継ぐため、水・空気の保全と環境美化に努めます。

平成二八年四月

一般社団法人北海道養豚生産者協会 会員

協会の取組み

- 消費者向け会員農場情報をホームページで紹介
- 北海道衛生部局等関係者と連携した迅速な家畜防疫情報の提供
- 全道養豚経営研修会や地方養豚技術研修会の開催及び賛助会員セミナー等の案内
- 農場衛生記帳レベルの向上指導及び農場HACCP認証の取得推進